

## 園だより 11月

あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。

地はお造りになったものに満ちている。

詩篇 104 章 24 節

暑い日もあった10月でしたが、風で秋を感じ、木々の葉っぱの色の变化に季節を感じながら過ごしたひと月でした。

9月の終わり頃から年長組がなにか話し合いを始めていました。体を使って仲間たちと取り組みながら話し合っていました。年中組からは「でんかしょでんかしょと掛け声とともに元気に遊ぶ様子が窺われ、いつもより力がみなぎってきていました。年少組はかわいい耳を付けて森の動物たちになりきって遊ぶ姿が。少しずつ「体で表現し、喜び・楽しさを味わう」という運動会のねらいに沿った日々が展開されて行きました。それぞれの学年がそれぞれのときの流れの中、子どもたちの心が体の動きと呼応し合いながら豊かに耕かされていく様子に、「運動会」という節目の役割の大切さを改めて確認した月となりました。当日は天候に恵まれ、子どもたちそれぞれのその日、そのときの姿をたっぷりご覧いただけたことと思います。二年ぶりの校庭での運動会、保護者の皆様、応援に来てくださった方々と一緒に、子どもたちの精一杯な姿に声援を送ることができたこと感謝でした。たくさんの応援、本当にありがとうございました。

休み明けの朝、園庭門で子どもたちを迎えていると「門、まだ閉まらない？」と声をかけてきた年長さん、「早く跳び箱出したいからさ！」と。運動会をきっかけに跳び箱に挑戦、もっと高い段を跳びたい！もっと気持ちよく飛びたい！と、子どもの想いはやはり運動会の前も後も変わりなく、途切れることなく繋がっていました。

私たち保育者、幼稚園が願う運動会の取り組みは、運動会が日常の日々から特化することなく、子どもたちの二学期の園生活（継続されている遊び）に運動会に向けての想いが加わり、それがそれぞれの成長への良いきっかけとし、子どもたちの想いの深まりが増し加わる、その過程の中の一日が行事当日の日となることです。今年度もその想いを大切に、子どもたちの成長段階を捉えながら、10月の日々を豊かに過ごすことができました。

11月は少しずつ「静」のときへと流れていきます。子どもたちが感じるそのときを保護者の皆様と共に見守り、大切に過ごして参りたいと願います。よろしく願いいたします。

園長 駿河 幸子